絵を通して広がる出会いが楽しい

ピープル People

8月9日から21日まで富山大和で〈富山大和 今昔を描く100選展〉が開かれ、西町大和75年の思い出を描いた100点の水彩画が展示された。筆をとったのは、やさしいタッチの絵で知られる絵画愛好家の小橋啓一さん。絵を描くようになったきっかけなどお話を伺った。

絵画愛好家

小橋 啓一 さん

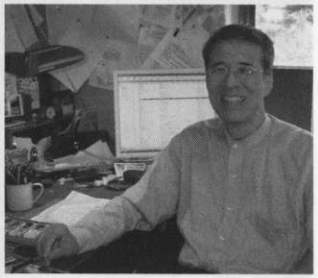
こばし・けいいち●
1941年9月20日大阪市生まれ。3歳の時富山市へ。五番町小学校、南部中学校、富山高校、富山大学経済学部を卒業。ゼネコンに定年まで勤め、その後3年間別の会社にいた頃から、風景を描き始める。2005年、市内電車(富山地鉄)シリーズが北陸銀行のポスターに。同年、万葉線ポスター展。2006年、富山市価値創造プロジェクト Good Working賞受賞。2007年、〈富山大和今昔100選展〉。好きな言葉は、「クリエイト(創造)」。富山市太郎丸在住。66歳。

子どもの頃から絵を描くのが好きだったという小橋さん。

「以前は絵手紙風のものを描いていました。風景を描くようになったのは定年退職後で、南富山駅の市電を描いて、駅の近くに住む友人に送ったのが最初でした。次に、堀川小泉の電停を描いて近所の人にあげたらわりあい好評で、それならと一年ぐらいかけて全ての電停を描いたんです」

その絵が、あるきっかけで北陸銀行のポスターに採用されることに。その他にも、蓮町にあった富山大学への行き帰りに乗った旧富山港線やその後のライトレール、同級生が住む岩瀬の風景など、気のおもむくまま筆を走らせてきた。一方、近所の人や知人、会社から頼まれて描くことも多いという。

「私はプロの画家ではないですから、大きい絵は描けないし、今まで自分の絵が上手いと思ったことはないです。身近なテーマを描いて、見た人に喜んでもらえることが嬉しいんです」



これまで何度か銀行の支店などで作品展を開いてきた。そこで出会った人から絵が欲しいと言われればそのコピーをプレゼントしているそう。

「あとからお手紙を頂いたりするのですが、とても嬉しいですね」GL